

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	2024年8月1日
【四半期会計期間】	第64期第2四半期（自 2024年3月21日 至 2024年6月20日）
【会社名】	太洋テクノレックス株式会社
【英訳名】	TAIYO TECHNOLEX CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 細江 美則
【本店の所在の場所】	和歌山県和歌山市有本661番地
【電話番号】	073-431-6311（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役執行役員管理本部長 水谷 浩
【最寄りの連絡場所】	和歌山県和歌山市有本661番地
【電話番号】	073-431-6311（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役執行役員管理本部長 水谷 浩
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第63期 第2四半期 連結累計期間	第64期 第2四半期 連結累計期間	第63期
会計期間	自 2022年12月21日 至 2023年 6月20日	自 2023年12月21日 至 2024年 6月20日	自 2022年12月21日 至 2023年12月20日
売上高 (千円)	1,761,862	1,760,225	3,411,465
経常損失 () (千円)	41,743	35,096	108,076
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純損失 () (千円)	33,760	26,151	126,536
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	33,228	21,987	110,051
純資産額 (千円)	2,616,061	2,557,384	2,539,238
総資産額 (千円)	4,985,524	5,026,168	4,577,917
1株当たり四半期(当期) 純損失 () (円)	5.68	4.39	21.28
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	51.9	50.2	54.8
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	38,034	257,376	27,472
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	80,394	34,630	64,839
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	228,042	221,466	141,036
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	825,044	934,432	485,299

回次	第63期 第2四半期 連結会計期間	第64期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2023年 3月21日 至 2023年 6月20日	自 2024年 3月21日 至 2024年 6月20日
1株当たり四半期純利益又は 1株当たり四半期純損失 () (円)	1.81	5.41

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については、記載しておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、1株当たり四半期(当期)純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、本四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生はありません。また、前連結会計年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更ありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済状況は、ウクライナ及び中東情勢の長期化による原材料やエネルギー価格の高止まり、円安に伴う物価上昇により、実質賃金が連続してマイナスを記録するなど景気を下押しする懸念はあったものの、高水準な企業収益と約30年ぶりの水準となった春季労使交渉の結果が所得環境を改善したことから、引き続き緩やかな回復基調で推移いたしました。

当社グループが属する電子基板（1）業界は、生成AI関連市場の拡大を受けてデータセンター向けサーバーや民生向けパソコンの需要は増加したものの、スマートフォン等の民生品や世界的なEV市場の失速、不正問題の影響等による自動車の減産により車載向け高機能製品の需要が低迷したことから、低調に推移いたしました。

このような経済環境の下、テストシステム事業及び鏡面研磨機（2）事業において販売は増加したものの、電子基板事業及び産機システム事業において販売が減少したことから、売上高は減少いたしました。

これらの結果、連結売上高は1,760百万円（前年同四半期比0.1%減）と、前年同四半期連結累計期間に比べ1百万円の減収となりました。

損益については、テストシステム事業の売上高が増加したこと並びに人件費や広告宣伝費等の販売費及び一般管理費が減少したことに伴う影響はあったものの、電子基板事業及び産機システム事業において売上高が減少したことに伴う影響により営業損失34百万円（前年同四半期は61百万円の営業損失）、経常損失35百万円（同41百万円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失26百万円（同33百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

（電子基板事業）

医療機器メーカー向けのFPC（3）の販売は増加したものの、民生品及び産業機器向け製品の在庫調整が長期化している影響等により、その他セットメーカー（4）及びカメラメーカー向け等のFPCの販売が減少したことから売上高は減少いたしました。損益については、売上高減少に伴う影響及び賃上げ等に伴う売上高労務費比率の上昇等により減益となりました。

その結果、売上高1,152百万円（前年同四半期比12.4%減）、セグメント利益163百万円（同33.1%減）となりました。

（テストシステム事業）

セラミックス基板及びパッケージ基板向け外観検査機（5）並びにFPC向け通電検査機（6）の販売が増加したことから、売上高は増加いたしました。損益については、売上高が増加したこと、利益率の高い製品の販売により売上総利益率が上昇したこと並びに人件費や広告宣伝費等の販売費及び一般管理費が減少したことに伴う影響により黒字転換いたしました。

その結果、売上高349百万円（前年同四半期比93.9%増）、セグメント利益31百万円（前年同四半期は80百万円のセグメント損失）となりました。

（鏡面研磨機事業）

リチウムイオン電池用フィルム加工向け研磨機の販売が増加したことから、売上高は増加いたしました。損益については、労務費等が増加したことに伴い売上総利益率は低下したものの、売上高増加に伴う影響により増益となりました。

その結果、売上高192百万円（前年同四半期比26.0%増）、セグメント利益16百万円（同0.4%増）となりました。

（産機システム事業）

医療向け外観検査システムの販売はできたものの、大型パッケージ基板の自動検査ライン等の販売があった前年同四半期の反動減により、売上高は減少いたしました。損益については、売上高減少に伴う影響により損失が拡大いたしました。

その結果、売上高65百万円（前年同四半期比41.7%減）、セグメント損失19百万円（前年同四半期は14百万円のセグメント損失）となりました。

1 電子基板

電子部品を表面に固定し当該部品間を配線で接続するために必要な導体パターンを、絶縁基板の表面のみ又は表面及びその内部に形成した板状又はフィルム状の部品であるプリント配線板と、プリント配線板に電子部品を実装したモジュール基板の総称。前者は材質によりリジッド板、F P C等に区分される。

2 鏡面研磨機

素材表面の凹凸を砥石等で磨きこむことにより、素材表面を鏡のように加工する機器。

3 F P C

Flexible Printed Circuit (フレキシブルプリント配線板)の略。プリント配線板の一種であり、ポリイミド等の屈曲率が高く薄い絶縁材料を支持体とした、柔軟に曲がる基板。

4 セットメーカー

最終製品を供給する民生エレクトロニクスメーカー等の総称。

5 外観検査機

プリント配線板やプリント配線板に部品を実装したプリント回路板等の外観状況を光学的に把握し、コンピュータを用いた画像処理によって良否を判断する検査を行う機器。

6 通電検査機

プリント配線板及び半導体パッケージ向け基板の配線が設計のとおり接続されており、断線や短絡がないことを電気を通して確認する検査を行う機器。

財政状態の状況

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べ438百万円増加し、2,973百万円となりました。これは主として、売上債権及び棚卸資産が減少した一方、現金及び預金並びに有価証券が増加したことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ9百万円増加し、2,052百万円となりました。これは主として、1年内償還予定の社債の振り替えにより固定資産のその他に含まれる投資有価証券が減少した一方、有形固定資産の取得により増加したものであります。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べ311百万円増加し、1,163百万円となりました。これは主として、短期借入金及び夏季の賞与を計上したことにより流動負債のその他に含まれる未払費用が増加したことによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ118百万円増加し、1,305百万円となりました。これは主として、長期未払金及び長期借入金が増加したことによるものであります。

(純資産)

純資産は、前連結会計年度末に比べ18百万円増加し、2,557百万円となりました。これは主として、利益剰余金が減少した一方、投資有価証券の時価が上昇したことによりその他有価証券評価差額金が増加したことによるものであります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、営業活動により獲得した資金が257百万円、投資活動により使用した資金が34百万円、財務活動により獲得した資金が221百万円となり、その結果、資金は前連結会計年度末に比べ449百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末には934百万円(前年同四半期比13.3%増)となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は、257百万円(前年同四半期は38百万円の使用)となりました。これは主として、税金等調整前四半期純損失35百万円により資金が減少した一方、減価償却費67百万円、売上債権65百万円の減少及び棚卸資産47百万円の減少により資金が増加したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、34百万円(前年同四半期は80百万円の使用)となりました。これは主として、無形固定資産の取得による支出19百万円及び定期預金の増加12百万円により資金が減少したことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果獲得した資金は、221百万円(前年同四半期は228百万円の獲得)となりました。これは主として、長期借入金の返済による支出150百万円により資金が減少した一方、長期借入れによる収入250百万円及び短期借入金の純増加額180百万円により資金が増加したことによるものであります。

(3) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前連結会計年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

(4) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(5) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(6) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は35百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況について重要な変更はありません。

(7) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループの資本の財源及び資金の流動性については、運転資金需要のうち主なものは材料仕入、外注費及び人件費等の営業費用であり、運転資金及び設備資金等を自己資金にて賄うことを基本としておりますが、資金の安定及び効率的な調達を行うため、金融機関からの借入れ及び割賦契約による調達を行っております。また、取引銀行6行と当座貸越契約を締結しており、今後も資金の流動性に留意しつつ機動的な資金調達を行ってまいります。

なお、財務状況については、自己資本比率50.2%であり、健全な状態を確保しているものと認識しております。また、流動比率255.6%であり、十分な流動性を確保しているものと認識しております。

3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	23,280,000
計	23,280,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (2024年6月20日)	提出日現在 発行数(株) (2024年8月1日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	5,992,400	5,992,400	東京証券取引所 スタンダード市場	(注)
計	5,992,400	5,992,400	-	-

(注) 完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。単元株式数は100株であります。

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2024年4月5日 (注)	40,800	5,992,400	6,997	822,195	6,997	945,495

(注) 譲渡制限付株式報酬としての新株式の発行

発行価額 343.00円

資本組入額 171.50円

割当先 当社の取締役(社外取締役を除く。)4名

(5) 【大株主の状況】

2024年6月20日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数 に対する所有株式数 の割合(%)
株式会社細江ホールディングス	和歌山県和歌山市有本661	1,600,000	26.73
細江 正大	和歌山県海南市	483,800	8.08
細江 美則	和歌山県和歌山市	349,920	5.85
紀陽興産株式会社	和歌山県和歌山市中之島2249	290,000	4.84
太洋テクノレックス従業員持株会	和歌山県和歌山市有本661	197,724	3.30
株式会社紀陽銀行	和歌山県和歌山市本町1丁目35番地	175,000	2.92
小川 由晃	和歌山県和歌山市	152,200	2.54
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1丁目6番1号	114,200	1.91
楽天証券株式会社	東京都港区南青山2丁目6番21号	87,400	1.46
日本証券金融株式会社	東京都中央区日本橋茅場町1丁目2-10号	69,600	1.16
計	-	3,519,844	58.80

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2024年6月20日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 6,200	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,984,500	59,845	-
単元未満株式	普通株式 1,700	-	-
発行済株式総数	5,992,400	-	-
総株主の議決権	-	59,845	-

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社保有の自己株式27株が含まれております。

【自己株式等】

2024年6月20日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 太洋テクノレックス 株式会社	和歌山県和歌山市有本661	6,200	-	6,200	0.10
計	-	6,200	-	6,200	0.10

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2024年3月21日から2024年6月20日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年12月21日から2024年6月20日まで）に係る四半期連結財務諸表について、太陽有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年12月20日)	当第2四半期連結会計期間 (2024年6月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,279,784	1,740,919
受取手形及び売掛金	632,233	567,470
有価証券	50,000	150,000
商品及び製品	73,880	137,415
仕掛品	341,045	211,645
原材料及び貯蔵品	122,114	141,091
その他	36,184	25,406
貸倒引当金	382	375
流動資産合計	2,534,859	2,973,574
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	293,197	281,398
機械装置及び運搬具（純額）	173,161	232,761
土地	906,424	906,424
その他（純額）	30,191	41,797
有形固定資産合計	1,402,975	1,462,381
無形固定資産		
その他	78,512	65,637
無形固定資産合計	78,512	65,637
投資その他の資産		
その他	565,583	528,407
貸倒引当金	4,012	3,832
投資その他の資産合計	561,570	524,574
固定資産合計	2,043,057	2,052,593
資産合計	4,577,917	5,026,168

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年12月20日)	当第2四半期連結会計期間 (2024年6月20日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	117,063	113,669
短期借入金	339,166	566,173
未払法人税等	16,108	12,328
製品保証引当金	720	1,006
その他	378,663	470,283
流動負債合計	851,721	1,163,460
固定負債		
長期借入金	414,747	467,728
長期末払金	77,895	135,020
役員退職慰労引当金	164,370	164,370
退職給付に係る負債	520,696	528,956
資産除去債務	9,247	9,247
固定負債合計	1,186,957	1,305,323
負債合計	2,038,679	2,468,784
純資産の部		
株主資本		
資本金	815,198	822,195
資本剰余金	938,498	945,495
利益剰余金	656,978	612,991
自己株式	116	116
株主資本合計	2,410,559	2,380,565
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	49,817	91,056
為替換算調整勘定	48,202	53,903
その他の包括利益累計額合計	98,019	144,960
非支配株主持分	30,659	31,857
純資産合計	2,539,238	2,557,384
負債純資産合計	4,577,917	5,026,168

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年12月21日 至 2023年6月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年12月21日 至 2024年6月20日)
売上高	1,761,862	1,760,225
売上原価	1,272,696	1,264,057
売上総利益	489,165	496,168
販売費及び一般管理費	550,357	530,633
営業損失()	61,192	34,465
営業外収益		
受取利息	794	745
受取配当金	640	702
為替差益	77	-
助成金収入	8,062	2,515
作業くず売却益	11,684	91
その他	5,487	4,039
営業外収益合計	26,747	8,094
営業外費用		
支払利息	4,902	5,275
債権売却損	1,954	2,010
為替差損	-	1,349
その他	440	89
営業外費用合計	7,297	8,725
経常損失()	41,743	35,096
特別利益		
補助金収入	98,723	8,366
特別利益合計	98,723	8,366
特別損失		
固定資産除却損	82	40
固定資産圧縮損	98,723	8,366
投資有価証券評価損	75	-
特別損失合計	98,882	8,406
税金等調整前四半期純損失()	41,901	35,136
法人税等	7,835	9,657
四半期純損失()	34,066	25,478
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失()	306	672
親会社株主に帰属する四半期純損失()	33,760	26,151

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年12月21日 至 2023年6月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年12月21日 至 2024年6月20日)
四半期純損失()	34,066	25,478
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	1,333	41,239
為替換算調整勘定	2,171	6,226
その他の包括利益合計	838	47,466
四半期包括利益	33,228	21,987
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	33,216	20,789
非支配株主に係る四半期包括利益	11	1,198

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年12月21日 至 2023年6月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年12月21日 至 2024年6月20日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失()	41,901	35,136
減価償却費	56,425	67,721
投資有価証券評価損益(は益)	75	-
製品保証引当金の増減額(は減少)	30	286
貸倒引当金の増減額(は減少)	134	187
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	11,326	8,260
受取利息及び受取配当金	1,434	1,447
支払利息	4,902	5,275
助成金収入	8,062	2,515
補助金収入	98,723	8,366
固定資産除却損	82	40
固定資産圧縮損	98,723	8,366
売上債権の増減額(は増加)	35,557	65,537
棚卸資産の増減額(は増加)	57,430	47,962
仕入債務の増減額(は減少)	20,346	3,860
その他	37,207	115,154
小計	54,878	267,090
利息及び配当金の受取額	1,441	1,447
利息の支払額	5,260	5,848
助成金の受取額	8,062	2,515
法人税等の支払額	5,449	8,871
法人税等の還付額	18,048	1,044
営業活動によるキャッシュ・フロー	38,034	257,376
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額(は増加)	12,002	12,002
有形固定資産の取得による支出	134,787	9,462
投資有価証券の取得による支出	1,200	1,200
有価証券の償還による収入	10,000	-
無形固定資産の取得による支出	39,594	19,570
補助金の受取額	98,723	8,366
保険積立金の積立による支出	1,534	761
投資活動によるキャッシュ・フロー	80,394	34,630
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	166,000	180,000
長期借入れによる収入	280,000	250,000
長期借入金の返済による支出	168,165	150,012
長期未払金の返済による支出	31,955	40,685
配当金の支払額	17,836	17,836
財務活動によるキャッシュ・フロー	228,042	221,466
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,796	4,920
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	111,410	449,133
現金及び現金同等物の期首残高	713,634	485,299
現金及び現金同等物の四半期末残高	825,044	934,432

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用の計算については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失に当該見積実効税率を乗じて計算する方法によっております。ただし、当該見積実効税率を用いて計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(四半期連結貸借対照表関係)

偶発債務

当社は、在外連結子会社TAIYO TECHNOLEX (THAILAND) CO.,LTD.への出資に関して、TD CONSULTING CO.,LTD.の出資額(720千パーツ)及びSathinee CO.,LTD.の出資額(300千パーツ)について保証を行っております。これら保証契約に係る出資額の円換算額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2023年12月20日)	当第2四半期連結会計期間 (2024年6月20日)
TD CONSULTING CO.,LTD.	2,973千円	3,110千円
Sathinee CO.,LTD.	1,239千円	1,296千円

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年12月21日 至 2023年6月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年12月21日 至 2024年6月20日)
給与及び諸手当	217,961千円	212,416千円
退職給付費用	12,056千円	7,588千円
製品保証引当金繰入額	597千円	299千円
貸倒引当金繰入額	15千円	-千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年12月21日 至 2023年6月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年12月21日 至 2024年6月20日)
現金及び預金勘定	1,638,760千円	1,740,919千円
預入期間が3ヶ月を超える 定期預金	813,716千円	806,486千円
現金及び現金同等物	825,044千円	934,432千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2022年12月21日 至 2023年6月20日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年3月17日 定時株主総会	普通株式	17,836	3.00	2022年12月20日	2023年3月20日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年12月21日 至 2024年6月20日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2024年3月15日 定時株主総会	普通株式	17,836	3.00	2023年12月20日	2024年3月18日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2022年12月21日 至 2023年6月20日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	電子基板 事業	テストシス テム事業	鏡面研磨機 事業	産機シス テム事業	計		
売上高							
外部顧客への 売上高	1,316,787	180,235	152,751	112,087	1,761,862	-	1,761,862
セグメント間 の内部売上高又は 振替高	-	-	-	637	637	637	-
計	1,316,787	180,235	152,751	112,724	1,762,499	637	1,761,862
セグメント利益 又は損失()	244,563	80,667	16,435	14,820	165,510	226,702	61,192

(注)1. セグメント利益又は損失()の調整額 226,702千円には、セグメント間取引消去等8,472千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 235,175千円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失()と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年12月21日 至 2024年6月20日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	電子基板 事業	テストシス テム事業	鏡面研磨機 事業	産機シス テム事業	計		
売上高							
外部顧客への 売上高	1,152,906	349,498	192,471	65,349	1,760,225	-	1,760,225
セグメント間 の内部売上高又は 振替高	-	-	-	219	219	219	-
計	1,152,906	349,498	192,471	65,568	1,760,444	219	1,760,225
セグメント利益 又は損失()	163,712	31,660	16,492	19,566	192,299	226,764	34,465

(注)1. セグメント利益又は損失()の調整額 226,764千円には、セグメント間取引消去等10,825千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 237,589千円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失()と調整を行っております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第2四半期連結累計期間(自 2022年12月21日 至 2023年6月20日)

(単位:千円)

	報告セグメント				合計
	電子基板 事業	テストシス テム事業	鏡面研磨機 事業	産機シス テム事業	
売上高					
F P C 製造	1,135,197	-	-	-	1,135,197
F P C 委託量産	181,590	-	-	-	181,590
機械装置	-	106,359	76,750	76,967	260,076
その他	-	73,876	76,001	35,120	184,997
顧客との契約から 生じる収益	1,316,787	180,235	152,751	112,087	1,761,862
その他の収益	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	1,316,787	180,235	152,751	112,087	1,761,862

当第2四半期連結累計期間(自 2023年12月21日 至 2024年6月20日)

(単位:千円)

	報告セグメント				合計
	電子基板 事業	テストシス テム事業	鏡面研磨機 事業	産機シス テム事業	
売上高					
F P C 製造	1,014,334	-	-	-	1,014,334
F P C 委託量産	138,572	-	-	-	138,572
機械装置	-	242,795	140,500	33,872	417,167
その他	-	106,703	51,971	31,477	190,151
顧客との契約から 生じる収益	1,152,906	349,498	192,471	65,349	1,760,225
その他の収益	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	1,152,906	349,498	192,471	65,349	1,760,225

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年12月21日 至 2023年6月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年12月21日 至 2024年6月20日)
1株当たり四半期純損失() (円)	5.68	4.39
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失() (千円)	33,760	26,151
普通株主に帰属しない金額 (千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純損失() (千円)	33,760	26,151
普通株式の期中平均株式数 (株)	5,945,374	5,962,540

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2024年7月30日

太洋テクノレックス株式会社
取締役会 御中

太陽有限責任監査法人
大阪事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 児 玉 秀 康 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 柴 田 直 子 印

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている太洋テクノレックス株式会社の2023年12月21日から2024年12月20日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2024年3月21日から2024年6月20日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年12月21日から2024年6月20日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、太洋テクノレックス株式会社及び連結子会社の2024年6月20日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1 . 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2 . X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。